

「英国の風」 2004年聖歌隊イギリス合宿報告

今回の合宿は2週間という時間をかけて、前半を大聖堂・各聖歌隊の見学とコンサート、後半を通常の礼拝奉仕を含む合宿とに分けた。全体を通して、いわば「学びと実践」という構成にした。

最初に訪れたカンタベリー大聖堂では大聖堂およびライブラリーの見学ツアーをプログラムしたが、あれだけの歴史を有しているという点において私たちを圧倒し、且つ私たちに日常を想起させる懐かしさをもった場所はなかったのではないだろうか。少なくとも私にとっては、自分の日常の日々に歴史の大いなる流れを体感することのできた貴重な時間だった。また、特筆すべきことは見学ツアーの最後に、修士会を行うための大きな石造りの部屋で(勝手に)パレストリーナ(Palestrina)を歌わせてもらい、みんなで英国に来た高揚感を遺憾なく発揮したことだろう。

プログラム全体を通して、実行委員会が重きを置いたものの一つに《礼拝に参加すること》というものがあった。「聖歌隊としての役割」を再確認する上で欠かすことのできないプロセスである。ましてや英国はキリスト教国なのだから、「生活に根ざした宗教」が経験できるのではないかという思惑もあった。しかして実行委員会の思惑は見事的に的を射たのではないかと思う。晩祷は全員で出席することが多かったが、数名は早祷や終祷などにも出席していた。かくいう私も終祷に出席した日があったのだが、私はこの礼拝がとても印象に残っている。日曜日のミサや唱詠晩祷などは経験があり予測もできたが、礼拝堂での終祷というのは初めて経験した。眠りに就く前の一時を静かにオルガンの流れる大聖堂で一日を振り返り、明日の無事を祈りながら過ごすという実に美しい時間の流れだった。

ケンブリッジ(Cambridge)に向かう途中、イーリー(Ely)大聖堂に立ち寄った。ここは聖堂ももちろんだが、隣接するLady Chapelというチャペルが7秒ほどの残響を保つというので有名であり、

私たちも実際に何曲か歌わせてもらってそれを実感した。ルネッサンス期の美しくなだらかな旋律をどのように歌うのか、ということなどを体験して学ぶことができた。全会一致で「この残響を立教に持って帰りたい」という話が出たことは言うを待たない。ケンブリッジでは、メインプログラムをKing's / St. John's両カレッジの「灰の水曜日」の晩祷参加と、教会を借りてのコンサートとして活動をした。同じ「大学の聖歌隊」で世界最高峰と称される聖歌隊の礼拝奉仕を実際に目の当たりにして一同衝撃と興奮を隠せなかったようだ。しばらく話題はカレッジの聖歌隊について終始していたような気がする。しかし実際に聴くことによって、今まで隊長が言葉で説明していたことを一気に飲み込んだという感じで、大変な勉強になった。コンサートもはじめ十人も人が来てくれれば上出来と言っていたのだが、礼拝堂の席が埋まるほどに教会の会衆の方々や通りがかる人が聴いてくださり、聖歌隊一同感無量だった。暖かい言葉を多くかけてもらい感謝しながら、次の目的地ウスター(Worcester)に向かった。

ウスターは、Scott Shaw隊長縁の地であり、「学び」のパートとして非常に価値あるものとなった。エルガー(E. Elgar)の勤めた教会、弾いていたオルガン、カトリック弾圧に耐えながら通った道、生まれた家。隊長から解説をして頂き、何を見ても何を教えられても感動の連続だった。ウスターでもコンサートを行い、そのコンサート前に会場となる教会の会衆の方々のお茶に招かれた。短い時間の中でそれぞれが別れがたい程の密な交流があったようだ。コンサートにもその会衆の方々に来て下さり、「自慢の子どもたち」をあたかな目で見守ってくれたことは忘れられない。

最後の合宿地であるレスター(Leicester)は、グレゴリー(Gregory)夫妻のお力を借りてとても充実したものとなった。4日間の練習のうち、2日間はMr. Gregoryによるワークショップで、主にレスター大聖堂での晩祷奉仕のためのレッスンとなった。ここまでのプログラムで感覚的に理解したことを実践するチャンスを与えられ、確実に学びの成果を発揮できたように思う。私は晩祷奉仕の際、学生指揮者として入祭唱の指揮をしたが、

歌っている隊員ひとりひとりがまるで別人のように見えたことが印象深い。礼拝全体を通して、隊員全員が心から奉仕することができたのではないだろうか。

2週間の合宿を通していくつもの教会・チャペルを見、それぞれが聖歌隊のあり方や演奏を実感し、「聖歌隊」の役割というものを本当に改めて考え直す機会となった。私たちが奉仕をするとき、それを聴いて心を神に向けている人がいることを忘れてはならないと思う。この合宿中、見るもの聴くもの全てが新鮮で、日々新たな感動と発見に出会い、その度に「聖歌隊」の歴史と私たちが受け継いできている伝統や思いを感じてきた。これからはこの経験をいかに礼拝に活かし、立教学院諸聖徒礼拝堂の聖歌隊としてよりより奉仕活動にかなげ続けていくかが課題である。

英国の風は私たちをあたたかかく迎え入れ、そして私たちはその風を身に纏い帰ってきた。風は新しい息吹を諸聖徒礼拝堂にもたらす聖霊の息吹となろう。これからの聖歌隊は期待できるものとなるはずである。

2004年イギリス合宿実行委員会委員長
永野有紀子

追記： この合宿実行のためにあらゆる協力をして下さった全ての方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

聖歌隊の公式HPのお知らせ

<http://www.rikkyo.ne.jp/sgrp/yechoirs>

主に、現役の活動を紹介しています。まだまだ立ち上げたばかりの状態ですが、今後内容を充実させていきますのでよろしくお願いします。

チャペルでの音楽活動の より一層の充実のため

6/6 三位一体主日にて、聖歌隊、オーガニストギルド、ハンドベルの3つの音楽団体の力を合わせ、「Burroughs: To worship, work and witness」をアンセムとして礼拝奉仕をしました。チャペルに集う音楽団体それぞれの横のつながりの強化と、このチャペルにおける音楽活動のより一層の充実を図っていきたいという音楽監督のショウ先生のお考えの下、実現しました。今後も3団体の力を合わせ頑張っていきます。

イギリス合宿の実り

春休みにおける「イギリス合宿」が実り多きものとして無事行うことができましたこと心から感謝申し上げます。イギリスにおける実りのひとつは、レスター大聖堂音楽監督のJ・グレゴリー氏と奥様のよしみ様には大変お世話になり、晩禱奉仕をはじめ貴重な経験ができたことです。元々、レスター大聖堂の聖歌隊が日本公演を行うなど日本との交流が深かったのですが、今回の合宿を通して私たち聖歌隊も太いパイプを築くことができました。そして、早くもその実りが「7/17 グレゴリー氏によるワークショップ」という形であられました。教会音楽研究所主催のワークショップです、OBOGの皆様もふるってご参加下さい。



カンタベリー。私たちの宿は大聖堂の門にくっついて建てられています。とても歴史ある宿でした。



ケンブリッジへ向かう途中の"cathedral town"として有名なイーリー。大聖堂にあります残響7秒というLady chapelです。



(c) N.Okita
ウスター エルガー像前にて



(c) N.Okita
レスター大聖堂にて

OB・OG会会計報告(2003年度)

役員会会計担当

〔収入の部〕

- (1) 2003年8月、年会費納入と賛助金のご協力を
お願いしたところ、2004年3月31日までに
- | | | |
|-----|------|----------|
| 年会費 | 130名 | 130,000円 |
| 賛助金 | 69名 | 416,000円 |
| 合計 | | 546,000円 |
- のお振込みをいただきました。まことに有難う
ございました。
- (2) 年会費と賛助金のご協力者のご芳名は、別掲
のとおりです(次頁参照)。

〔支出の部〕

- (1) 2003年秋のレクイエム奉唱会では、オーケ
ストラ・エキストラ謝礼として125,000円、
2004年2月の英国研修旅行では、オーガニ
スト崎山裕子前聖歌隊長の英国滞在費補助とし
て50,000円の援助ができました。
- (2) 2003年9月のOB・OG会総会、2004年春奉唱
会の文具通信費も現役に負担させずに済まし
ました。文具通信費内訳は、通知文・切手・葉書
が97,125円、宛名シール・封筒が8,695円など
です。
- (3) 2003年9月のOB・OG会総会および現役との懇
親会に現役を招待しましたが、当日の総会懇
親会会費だけでは足りず、15,600円の補助をい
たしました。
- (4) ブランスタッド元聖歌隊長の小平墓地管理
費として、本年度より、年額1,000円支出いた
しました。

〔収入の部〕		
年会費		130,000
賛助金		416,000
合計		546,000
〔支出の部〕		
現役への援助金		175,000
文具通信費		122,299
総会懇親会補助		15,600
墓地管理費		1,000
次年度への繰越		232,010
合計		546,000

(注)2004年3月31日現在。単位:円。

会費納入と賛助金ご協力のお願い

役員会会計担当

- (1) 2004年度は、秋のレクイエム奉唱会にW・
A・モーツァルトの奉唱を予定しています。
昨年のレクイエム(A・カンプラ)よりもオーケ
ストラの規模が大きくなりますので、援助金も
昨年以上に必要となります。
- (2) 総会および懇親会のご案内、春と秋の奉唱会
の現役からのご案内、会報の発行など含めま
すと、文具通信費だけでも年額概算20万円程度
必要となります。
- (3) できるだけ多くのOB・OG会員の方々に、会
の運営費としての年会費(1,000円)の納入を
お願いするとともに、現役への援助金として賛
助金(1口5,000円)のご協力をたまわりたいと
存じます。
- (4) 年会費の納入、賛助金のご協力には、同封の
郵便振込用紙をご利用ください。

住所変更のお知らせをお忘れなく!

役員会名簿管理担当

『立教聖歌隊OB・OG会名簿』の充実・更新の
ため、転居などの場合は、下記名簿管理担当
あてお知らせください。

また、他のOB・OG諸兄弟の消息などをご存
知の方も、併せてお知らせください。

聖歌隊OB・OG会では、現役とのコミュニ
ケーションおよび会員相互のコミュニケー
ションの充実のために、『会報』を発行し、
『名簿』をもとに郵送にてOB・OG諸兄弟のお手
許にお届けします。

また、現役からも、この『名簿』あてに、
春・秋の奉唱会のご案内などが郵送にて行わ
れています。

名簿管理担当:植野 幸和

電話&FAX : 03(3331)1721

〒168-0081

杉並区宮前2-30-22ウインダム宮前107

賛助金協力者ご芳名(2003年度)

(敬称略)

1950年代

工藤俊雄 石川善樹 小川總一郎 古谷俊次
細田栄一 廣田淳一 江並正 大山省三
糟谷祐子 佐藤悦子 寺本睦夫 辺見孝昌
前田佳子 松野裕子 石川範子 今井和道
今井佐禰子 笹部久美子 関武矩 内藤博子
樋口洋子 青木瑞恵 小川春乃 佐藤満寿哉
杉野一郎 (25名)

1960年代

小野翠 成田弘子 鎚木哲三 杉山栄一
福代亮三 高橋委作 谷市三 斎藤潤子
宮谷祥子 宮谷仁太郎 西章 菊地滋子
(12名)

1970年代

相沢牧人 佐山正子 三浦洋子 荒牧節子
銭元伸一 伊藤正人 伊藤弥寿世 阿部智子
長田睦子 佐々木泰弘 須藤茂 鈴木雅美
(12名)

1980年代

広瀬幹郎 迫間三香野 菰田宏美 小野信明
内田幸子 濱島結子 (6名)

1990年代

汲原宏江 向山博美 大野菜穂子 瀬下恵子
大野恭義 高橋由佳 亀山京子 横川ひかり
新井泰子 山川まり子 (10名)

2000年代

千野恵 小暮詩帆 (2名)

その他

スコット・ショウ 猿田潤子 (2名)
以上合計69名

年会費納入者ご芳名(2003年度)

(敬称略)

1950年代

工藤俊雄 石川善樹 鴻輝夫 小川總一郎
古谷俊次 細田栄一 廣田淳一 江並正
大山省三 糟谷祐子 佐藤悦子 寺本睦夫

辺見孝昌 前田佳子 松野裕子 石川範子
板橋志津子 今井和道 関武矩 今井佐禰子
笹部久美子 関本実 内藤博子 樋口洋子
青木瑞恵 小川春乃 小出道也 佐藤満寿哉
下川和枝 杉野一郎 (30名)

1960年代

小野翠 成田弘子 保坂政孝 大沢祐二
鎚木哲三 杉山栄一 壇上仁江 鳥井祥子
福代亮三 栗岩和彦 高木邦子 高橋委作
谷市三 西宇明男 斎藤潤子 宮谷祥子
宮谷仁太郎 西章 菊地滋子 山田祥子
内田研吾 (21名)

1970年代

相沢牧人 植野さなえ 大西礼子 佐山正子
根岸恵子 三浦洋子 荒牧節子 大西信一
吉田久美 植野幸和 加藤博道 河野純子
須藤恵子 銭元伸一 伊藤正人 高木慎二
徳住光則 梶ヶ谷淑子 伊藤弥寿世 阿部智子
長田睦子 佐々木泰弘 須藤茂 湯浅宣子
鈴木雅美 田澤利之 安田裕子 (27名)

1980年代

玉野克子 藤岡比佐志 広瀬幹郎 那須待子
町田宏 志村実千代 那須輝彦 迫間三香野
松田正典 渡辺順子 菰田宏美 酒井由枝
末廣禎一郎 末廣里夏 小野信明 紅林東史子
内田幸子 濱島結子 (18名)

1990年代

鈴木優子 汲原宏江 関根桃子 向山博美
大野菜穂子 進藤聖子 瀬下恵子 高橋瑞
岸塚涉 大野恭義 高橋由佳 成田美和子
堀順一 松岡恵子 岸塚千裕 武藤早苗
亀山京子 遠山朋美 長塚望 桃井連奈
横川ひかり 新井泰子 谷田千尋 山川まり子
森内直子 森山弦人 森山友恵 (27名)

2000年代

加藤智宏 島貫智 千野恵 倉田知秋
小暮詩帆 飯塚幹子 矢嶋大輔 (7名)
以上合計130名

OB・OGの消息

本会報では、OB・OGの皆様のお伝えしてゆきたいと考えております。結婚・出産・転勤・転居など、お差し支えなければ、OB・OG会事務局までお知らせ下さい。会報に掲載致します。特に慶弔事とはかわりなく近況を伝えるメッセージも良いと思います。どうぞ奮ってお寄せ下さい。

今回は2003年9月行われた総会に参加されたの方々から頂いたものと今回の総会通知の返信で寄せられたものです。

〔名誉会員〕

矢澤 信夫 チャプレン

折角ですが、例の持病(坐骨神経痛、難聴、進行中の白内障)のため、教会の主日礼拝出席さえ儘ならない昨今故、ご盛会を祈らせて頂いています。

松原 榮 チャプレン

突然なことで、まことに心苦しい限りですが、このたび、北関東教区主教を辞任することになりました。いろいろと申し訳ありませんが、そしてご迷惑をおかけしますが、よろしくお取り計らいください。取り急ぎ……。

遠山 隆夫 チャプレン

なつかしく出席したい気持ちは大ですが、高齢で、足が悪く、歩行が困難なので、失礼させていただきます。(あと2ヶ月で80歳になります。)

大郷 博 チャプレン

当日は海外出張のため出席できません。

村岡 明 チャプレン

当日は結婚式のため出席できません。ご計画の上に主の祝福をお祈り申し上げます。今夏の聖歌隊の合宿は、当地で実施されるとのこと、ご来軽をお待ちしています。

村上 達夫 チャプレン

1980年から5年間チャプレンとして聖歌隊と関わらせて頂きました。大変なつかしく思い出されます。また、沢山のことを学ばせて頂き、感謝

しています。1996年に東北教区主教を退職後、盛岡の主日礼拝に出て、楽しく歌っています。

竹内 弘 チャプレン

私は、浜松の教会の牧師をしておりますが、ちゃんとしたオーガニストがいなくて困っています。会衆は毎日曜20名前後で、年齢層が高く、オルガンなしですと、うまく聖歌が歌えません。しかたなしにローランドの電子オルガンに前もって聖歌を弾いてコンピュータに記憶させ、それを主日に用いています。オーガニスト養成と日本の実情に合う礼拝式文、聖歌が求められています。猿田先生たちが一所懸命やってこられました。これからはますます“はやり歌”的聖歌、その場限りの礼拝音楽ではなく、子供たちからお年寄りまで長い時代に心に残っていく聖歌、祈文が必要と考えています。BGMのグレゴリアンではない祈りとその“ふしまわし”の聖歌、皆さまに期待しています。

広田 勝一 チャプレン

お元気にご活躍の様子をうかがっております。小生も浦和の教会で働いています。川口のクリスマス礼拝では、お世話になり感謝です。

〔一般会員〕

斎藤 茂樹 (1937文宗)

只今病気療養中、4月で90歳になりました。総会・懇親会の上に、神の祝福を祈ります。

竹田 眞 (1952文英)

先日、神戸で佐々木大先輩と会いました。当日、先約の会合があり失礼します。

平野 修 (1953理化T)

清瀬聖母教会で、聖餐式文をハーモニーで歌う練習をしております。固定ドか、移動ドかで、苦労しております。

大山 省三 (1957経済T)

当日は、東京都合唱連盟主催の合唱祭開催日で、夜は、小生参加の合唱団の総会日で、いずれも役員を務めているため参加できません。

辺見 孝昌 (1957経済B)

北関東教区志木聖母教会の音楽監督?として信徒さん達への聖歌の指導と、主日礼拝の聖歌の選定をしています。

石川 範子 (1958文英A)

聖マーガレット教会に属しています。クワイヤーには入っていませんが、出来る奉仕をさせて頂いています。此度のクワイヤーOB・OG会の発足は素晴らしい、お世話下さった方々に、心から感謝です。今後を楽しみにしています。現役時代に受けた、教え、体験、想いは一生忘れずに感謝しています。

諫山 美保子(坂本) (1958文社S)

6月26日~27日にかけて、ガールスカウトのトレーニング・キャンプと重なり、大変残念ですが、今回は欠席させて頂きます。

関 武矩 (1958経営B)

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊に所属して歌っています。聖ルカ・チャペル・クワイヤーとの関わりは卒業して病院に就職して以来40年になります。病院は定年になりましたが、その後も歌えることを幸せに思っています。

今井 和通 (1958文英O)

NHKホールにパイプオルガンが入って満30年になりました。その後チャペルのオルガンも新しくなり、全国でも700台以上のオルガンが設置されています。

志木聖母教会でオルガンを弾いています。

福代 亮三 (1961経済B)

私は小金井聖公会に所属していますが、不思議なことに500人以上いる筈の立教学院聖歌隊OB/OGが私以外には一人もいません。OB/OGの皆様で小金井周辺にお住まいの方は是非小金井聖公会において、小さなクワイヤー作りに力を貸してください。

加藤 清二 (1961経済)

5月15日~17日ブランスタッド先生を偲ぶ会で、清里に行ってまいりました。1953年~61年

卒のクワイヤーとオーケストラの連中でした。聖アンデレ教会の祈念礼拝で、先生の大好きな聖歌444番を歌いましたが、過ぎし日のことが思い出されて、涙があふれ出て唱になりませんでした。

高木 邦子(和気) (1963社社S)

7月にオペラシティでバッハの「ヨハネ受難曲」を歌います。そのための強化練習日にあたり、残念ながら、欠席させて頂きたく思います。

菊地 滋子(松本) (1967文史A)

日曜のチャペル礼拝に、偶々、出席したところ、聖歌隊の新生が大勢おられ、また、OBOGも現役の隊員と一緒に奉唱されておられ、皆様の活動に、大変心強く思いました。

佐山 正子(山田) (1970文心S)

26日は、残念なことに小学校の同期会と重なり、伺えないのです。今は、東京教区聖歌隊で細々と歌わせていただいております。

荒牧 節子 (1971文英S)

変らず教員生活ですが、学校の共学化に向けて、頭の切り替えが大変な毎日です。

須藤 恵子(後藤) (1973社社A)

現在東京聖三一教会に在籍していますが、仕事が忙しく礼拝になかなか出席出来ません。埼玉県東松山市の聖ルカ教会に時々出席して、大きな声で聖歌を一所懸命歌っています。何とか時間を作って奉唱会にも参加したいと思っています。

掛川 祐司 (1976法法T)

昨年11月に職場が変わり、土曜日は出勤日のため参加できません。

湯浅 宣子(大林) (1977社産)

11月12日(金)市ヶ谷ルーテルにて英国人ダンサーとバロックダンス公演をいたします。現役やOBOGの方にお知らせしたいと思います。いずれ奉唱会や総会にも出席したいと思います。

長田(川中) 睦子 (1977法法S)
ウィークデーは仕事で「ディーエスイレ」な日を過ごし、金・土・日は「カンブラーのレクイエムの練習」と聖路加のフェスティバルクワイヤーでの「モーツァルトのレクイエムの練習」と今年に限って発生した「休日出勤」の複雑な「カノン」にほんろうされています。よくぞOBOG会総会に出席できたなー、でも来て良かった、素直な感想です。

田澤 利之 (1979法法)
日本聖公会横浜教区の総務主事を兼務するようになり、週2回、横浜の主教座聖堂教務所に通勤しています。

藤岡 比佐志 (1980法法B)
当日、北海道に出張の予定が入っており残念です。

小野 信明 B (1986文基B)
妻の牧会する教会で、共に開拓伝道に従事して7年となります。そのようなわけで、土、日曜日は忙しくしており、OBOG会にいつも出席できず、申し訳ございません。

成田 美和子(染森) (1995法法S)
水戸に転居して2年目になります。自然が豊かで子育てにとってもいい環境です。

堀 綾乃(大森) (1995文基S)
今月、聖歌隊同期の堀順一さんと結婚し、姓、住所に変更がありますので、どうぞよろしく願いいたします。

松本 大樹 (200000経営B)
今年の春奉には、本当に久しぶりに参加させて頂きました。暫く歌っておらず、本番当日もガチガチに緊張していましたが、楽しく歌えたと思います。できれば、秋のモーツァルトにも参加したいと思っていますが、現在の仕事が土曜日も出勤で、練習へ参加できるか微妙な状況です。何とか出られると良いのですが.....。

谷田 千尋(青木) (1998文基A)
6月14日に米国ボストンに発ちます。滞在は1年~3年の予定です。

一戸 祐子 (2004観光S)
今年、大学を卒業し、医療センターを運営するグループ会社に勤務しはじめました。

沖田 直哉 (2004文基B)
現在、(株)ヨドバシカメラ新宿西口店パソコン総合チーム勤務。

立教大学諸聖徒礼拝堂聖歌隊OB・OG会会報
第一号

発行日 / 2004年6月26日

発行元 /

立教大学諸聖徒礼拝堂聖歌隊OB・OG会事務局

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学6号館6320

スコット・ショウ研究室